

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】令和4年9月28日(2022.9.28)

【公開番号】特開2021-117317(P2021-117317A)

【公開日】令和3年8月10日(2021.8.10)

【年通号数】公開・登録公報2021-036

【出願番号】特願2020-9802(P2020-9802)

【国際特許分類】

*G 02 B 17/08 (2006.01)*

10

【F I】

*G 02 B 17/08* A

【手続補正書】

【提出日】令和4年9月16日(2022.9.16)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0047

【補正方法】変更

【補正の内容】

20

【0047】

また、第2形態の投写光学系3Aの最大物体高、Fナンバー、投写角度、TRは、以下のとおりである。最大物体高は、液晶パネル18面上において画像形成領域の中で、第2形態の投写光学系3Aの第1光軸Nから最も離れた点までの寸法である。最大物体高の単位はmmである。FナンバーはFNOで示す。投写角度は、第2投写角度2であり、単位はdegである。TRは、スローレシオであり、投写距離を、投写画像をスクリーンSへ投写した時のX軸方向の寸法で除算した値である。

最大物体高 11.7

FNO 2.2

投写角度 70.9

30

TR(0.59" 16:9LV) 0.304

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0100

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0100】

(実施例3の第2形態)

図21および図24に示すように、第2形態の投写光学系3Cの投写方向(第2投写方向)は、第1形態の投写光学系3Cの投写方向(第1投写方向)と相違する。すなわち、第2形態の投写光学系3Cでは、第2光学系32から、第1光学系31とは反対側に向かって光束が投写される。なお、第2形態の投写光学系3Cが最終像をスクリーンSに投写する投写角度である第2投写角度2は、第1形態の投写光学系3Cが最終像をスクリーンSに投写する第1投写角度1と同一である。

40

50